

Q2 広い庭を間延びさせない工夫は？

A. 深く掘った川や築山(注5)などで高低差をつけて、空間にメリハリとスケール感を



写真だとわかりにくいのですが、橋の下はかなり深い川です。川の高低差、植栽の種類や配置、アクセントの橋や燈籠が風景に変化を与えています。

広い庭は、漫然とつくと平板になってしまいます。左のお宅は、庭の中に深い川を掘り、橋をかけて、はるか下に水を流しました。その段差が空間にメリハリをつけています。深く掘る工事は大変ですが、たとえば掘った土を利用して築山にしてもいいのです。そうすれば高低差がきわだって一石二鳥。トラックもショベルカーもなかった昔の人が考え出した庭づくりの智慧です。そして築山に紅葉などをあしらえば、野趣豊かな“深山”の風情を楽しめます。また、建物の前に大きな榎の木を植えてスケール感のある庭を演出するとともに、枝で建物を半分隠すことで奥行き感を出しています。

Q3 和の庭で「創造性」を発揮するには？

A. 伝統・定番のなかに、ひとつだけオリジナルデザインを組み込むと、自然になじみます



直線のラインが印象的な長方形のつくばい。伝統的な茶庭に、モダンで斬新な空気運んでくれます。

たとえば、左の写真は個人のお宅の内露地です。燈籠は定番中の定番の柚木型(注6)。黒文字(注7)の垣根も、飛び石の配置も、どこにでもある伝統的な茶庭の様式ですが、やはりそれだけでは個性がなくてつまらない。そこで、この空間をひきしめるアクセントとして、直線的なつくばい(注8)を中央に配置しました。これは私がデザインして、石屋に彫らせた創作の手水鉢です。こんなふうに「伝統的な定型のなかに、ひとつだけオリジナルな創作をプラスする」というやり方なら、和の伝統的な雰囲気をごわずに新しい味付けができるはず。勇気をもって新しいものを定番の中に組み込んでいく作業が、とくにこれからの和の庭には求められていると思います。

Q4 「遊び心」ってどんなもの？

A. 「心」の字の川、かすかに聞こえる水音…訪れる人を愉ませる、粋な仕掛けです



「心字形」は江戸時代以前からある一種の文字遊びで、寺だけでなく個人の庭にも用いられます。



清々しいせせらぎの水音が、訪れる人に期待感を与える外露地。狭い庭ですが、上の石を小さく、下の石を大きくして落差を大きく見せています。

左の写真はお寺の庭。訪れる人に精神的なもてなしをする場です。そこでこの枯山水は「心」という字をくすして白川砂で構成しています。こういう庭を「心字形」といいます。また燈籠は「心のともしび」、橋は「心の架け橋」…そういう精神世界をさりげなく表現しているのです。「期待感」を表現する庭もあります。右の写真は個人宅の外露地。中央に斜めに渡っているのは古い石樋です。この樋から水が落ちると、せせらぎのような音がする。ここのお宅に入っていくときに、かすかに音が…なんやろ?…という期待感が生まれます。そして、まるで沢から水が流れる山あいにいるような爽やかな気分になります。こういった遊び心は、訪れる人の心を癒し、愉ませてくれる、大切なスパイスなのです。

5) 築山・つきやま
川を掘るさいに出た土を盛り上げてつくった山。ショベルカーなどの重機がなかった江戸時代に編み出した工夫。紅葉などをあしらえば、野趣豊かな深山(みやま)の風情に。

6) 柚木型・ゆきがた
伝統的な燈籠のデザインのひとつで、春日大社の燈籠がこれ。全体にスマートな感じで、どんな庭にも比較的合わせやすいデザインです。

7) 黒文字・くろもじ
クスノキ科の落葉灌木。材は香気があり、楊子や簗になります。茶席で菓子に添える楊子としても使われます。

8) つくばい
茶庭の手水鉢(ちょうすばち)。手水鉢を低く据えてあって、手を洗うのに茶客がつくばう(うすくまる)ので、この名があります。

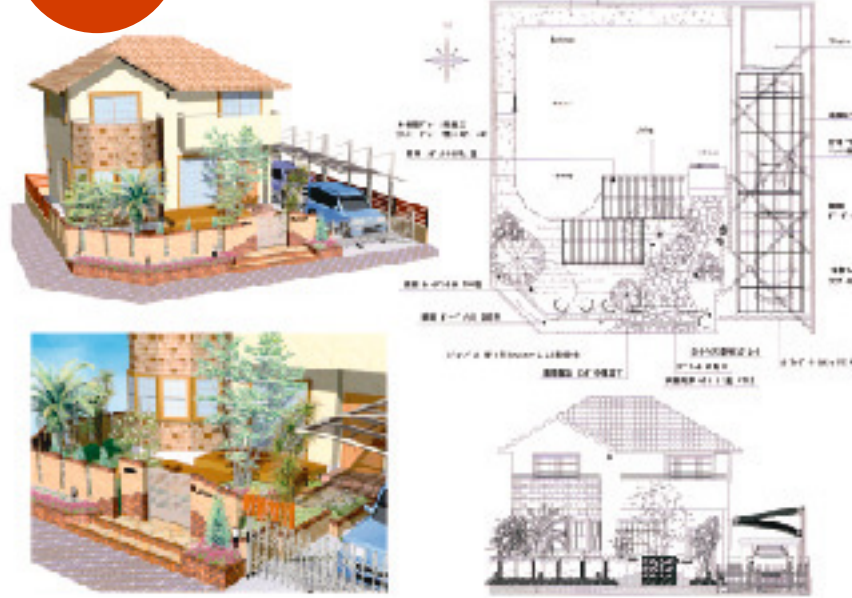
**御庭番
施工 & プランニングコンテスト
優秀作品のご案内**

審査委員長 造景家
金井 貴太郎氏
1949年 群馬県生まれ
東京農業大学造園学科卒
(株)景環 代表取締役
全農くまエクステージ店長
群馬県立農林大学講師
一級造園施工管理技士
二級建築士

2004年秋に実施した御庭番ユーザー様を対象としたコンテストの上位3作品をご紹介します。

**ベスト
プラン賞**

有限会社 横山工業 様
埼玉県さいたま市



POINTS

建物のやわらかなイメージに合わせて照明をふんだんに使い、夜でも楽しいアウトドアリビングを。

●作品の講評

これだけの描写力があれば、申し分なく胸を張り見せられる。斬新さと特別な奇はいらぬ。ドラマはテレビや映画だけでなく、外構造園も素材という俳優に演じさせてこそその魅力。左右の門袖の変化、バランスの良いポストとインターホン、表札、塀のスリットなど、植栽を含め思わず振り返りたくなる造景にあふれている。



光の演出で、昼と夜とではまったく違ったイメージの外構が出来上がった。

**施工作品部門
最優秀賞**

有限会社 アールシーワークス 様
愛知県豊橋市



POINTS

白い外壁の建物と、和風の庭を一部残して洋風仕立て

●作品の講評

外構の流れる曲線の大胆さが、住宅美をワイドに引き出し、造景演出の極みとなった。散歩途中、道路に立てば誰でもこのドラマに見入るだろう。アール壁が奥へ奥へと誘い、素材とカタチを変えた門袖に到達。右手に見える株立ちの木が扉を開ける心に語りかけてくる様子。

**プレゼン
テーション部門
最優秀賞**

株式会社 清水建業 様
埼玉県新座市



POINTS

シンプルな住宅に「U.style」フレーム+柱をモニュメントに。

●作品の講評

建築と同化させ、よく練られたプレゼンである。道路に一步バックさせた空間を花壇にし、受けたラインを曲線に取って玄関へとつなげていく。見上げる意匠はシャープとなり、住まいの外観がそのまま外構へと広がる景のすべてに、こころ遣い発想力と技量を感じる。